

令和7年度 学校評価結果概要

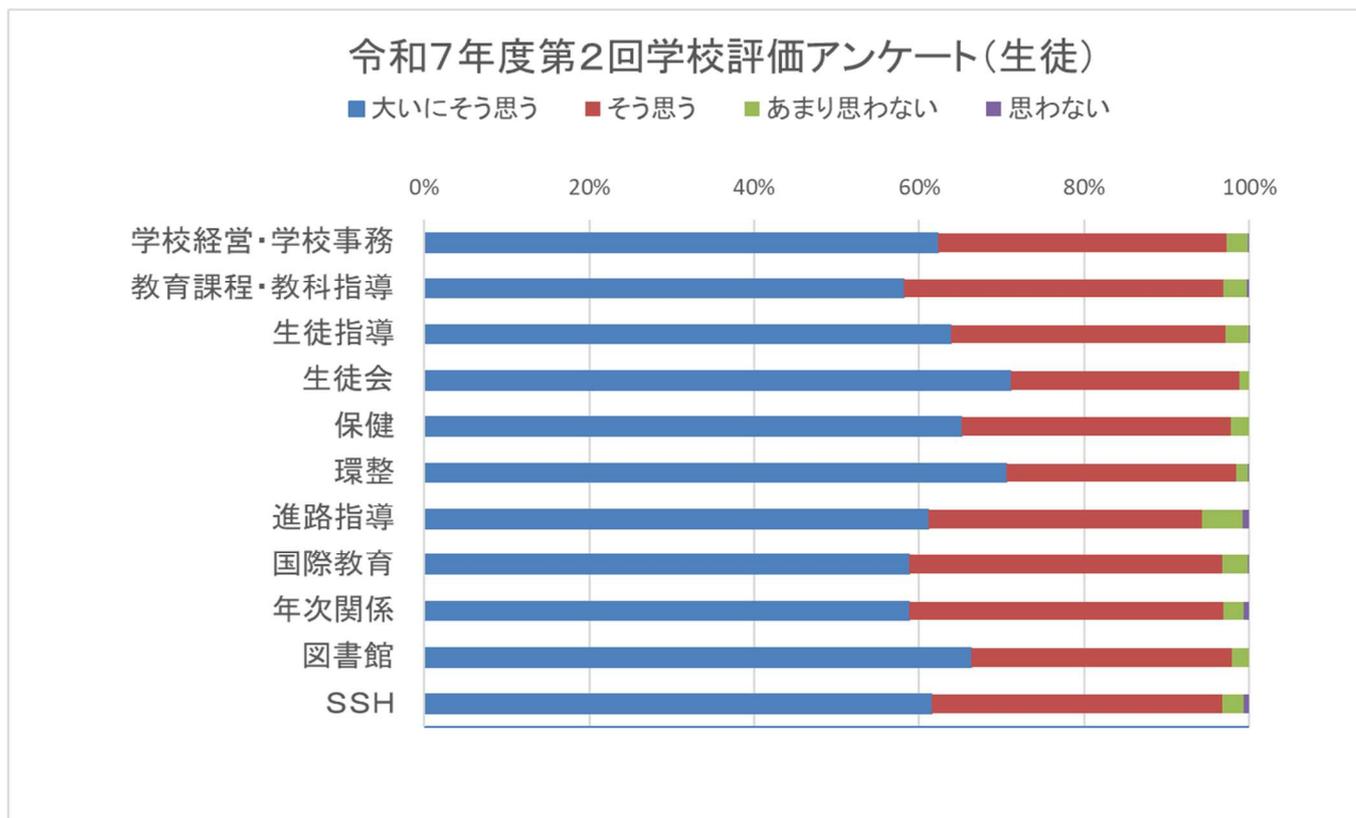
1 学校評価の方法

- 時期 令和7年7月（第1回）及び12月（第2回）
- 評価者 生徒、教職員及び保護者
- 方法 学校改善・点検シートにより達成度を4段階で評価する。

2 第2回学校評価結果（令和7年12月実施）

（1）生徒アンケート結果の概要について

- 対象生徒数 : 580名
- 回収者数 : 580名（回収率：100%）
- 質問項目数 : 18
- 質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目18項目で、肯定的な評価の平均は96.9%（昨年比+3.5%）

- 否定的な評価が高かった項目（10%以上）※今年度はありませんでした。 今年（昨年比）
・ 項目 00.0%（±0.0%）

【考察】

- ・ 今年度の3年次生はコロナが5類に移行した年に入学した生徒で、ほぼ、従来通りの学校教育活動が行われた。そのような中、全ての評価項目で90%以上が、1：達成されている（大いにそう思う）、2：ほぼ達成されている（ほぼそう思う）の肯定的な回答結果となった。加えて、全ての項目で昨年度より5～2ポイントほど評価が上回った。生徒は積極的、好意的に学校生活を送れていることがうかがえる。

- ・ 防災意識の高揚や防災教育等への取組が課題であったが、学校経営や教育活動への理解も含め、年次を追うごとに高い評価となっている。いつ発生するかわからない災害に対しての備える意識や発生後の具体的行動の周知については、慢心せず徹底を図っていく。避難行動の訓練を複数回行うこと（机上訓練や事前連絡せずに実施など）を行い、特に1年次における周知・認知不足を解消していく必要がある。
- ・ 「いじめ防止に対する指導」や「生徒の心身の健康に関する指導」についても、入学当初から教育相談やカウンセリングを利用できる環境を整えている。この項目に関しても年次を追うごとに評価が高くなる傾向があり、継続して下級生の時からクラス担任や部顧問、生徒とかかわりを持つ教員による気づきや聞き取り等の対応を行っていくが必要である。
- ・ 進路指導について、例年は年次を追うごと数値が良くなる傾向があり、進路実現について受験を意識し高まることが予測できた。今年度は「進路意識を高めるため、各種進路情報の提示が有効になされている」という項目が、1：達成されている（大いにそう思う）・2：ほぼ達成されている（ほぼそう思う）と回答した1年次は99%、2年次は97.5%、3年次は97.3%と逆転現象が起きた。これは、意識の高まり故の辛口評価も考えられる。今後も油断せず1、2年次から進路意識を高めることや学習への真摯な態度を育む指導を工夫し継続していく。
- ・ 本校の特色の一つでもあるSSH関連については、継続して肯定的な評価である。学校全体で取り組む課題研究や地域との連携、広報活動の成果が表れていると考えられる。
- ・ 図書館の利用については継続して高い評価である。図書貸出冊数の増加等、読書への誘いや来館しやすい図書室の雰囲気づくりがその要因であると考えられる。

【生徒自己評価について】

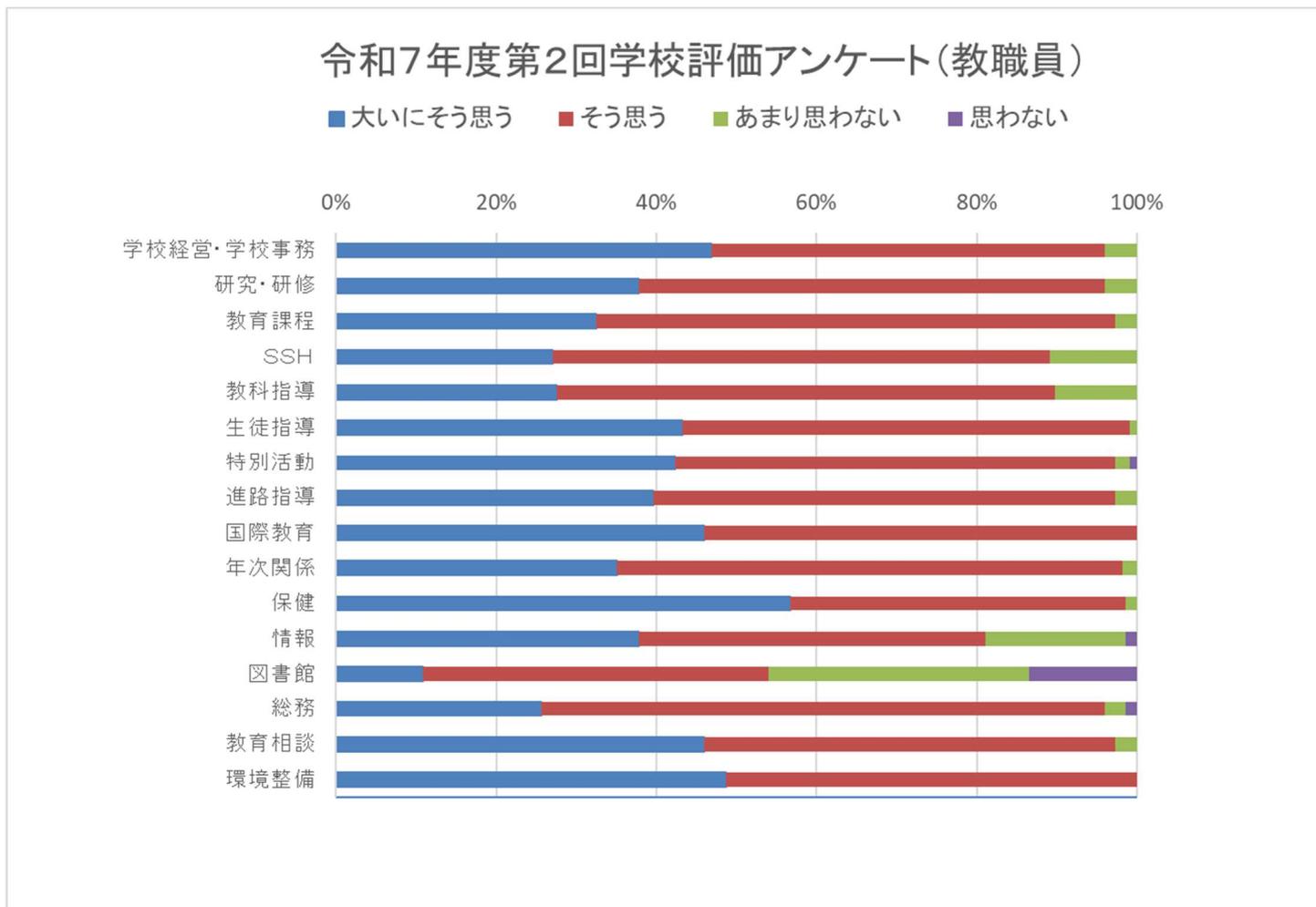
○否定的な評価が高かった項目（20%以上）	今年（昨年比）
・ シラバスを活用して履修登録を行っている。	34%（+1割）
・ 授業の予習や復習は、しっかりと行っている。	26%（+6割）
・ 家庭学習時間は、年次+1時間程度を実行している。	37%（+10割）
・ 読書、学習、調査のために図書館を活用している。	38%（+7割）

【考察】

- ・ 本校の教育方針「文武両道」をよく理解し、それに向けた指導や生徒自身の取組が行われているため、生徒指導および部活動や学校行事に対する自己評価は高い。学校生活を通じて望ましい生き方・在り方を身に付けようと生徒が普段から心掛けているものと考えられる。しかし、予習・復習を含めた学習時間については、改善が続いているが十分といえず、生徒に対して丁寧な指導を根気強く行っていく必要がある。
- ・ 各教科で履修計画等を記したシラバスを配付、指導しているが、例年この項目が低調であり問題となっていた。今年度は各教科で指導の再確認を行い、数値は若干改善されているが、單元ごとの見通しができ、計画的な学習の実現のため使用に対し、教師・生徒共に改善を続ける必要がある。
- ・ キャリアパスポートの作成・活用は、昨年度に比べて7ポイント向上し、ここ数年評価が高くなった項目である。さらに、教員にとっても生徒理解が深まり、効果的なサポートや教育活動の改善につなげられる意義を共有していく必要がある。
- ・ 図書室の活用については、実際に利用している生徒が全体の半数強となった。生徒の「読書センター」であるとともに「学習・情報センター」としての機能が果たせるよう継続して指導を行う必要がある。
- ・ BYOD端末の導入によりICTを活用した授業は大幅に進められた。情報コンテンツの使用は、評価も上昇し、高止まりになりつつある項目である。オンライン授業へ対応も、これまで以上に工夫しながら取り組んでいる。一方、Classiは連絡ツールだけでなく個々の学習意欲を膨らませるよう個別最適な学習に対しても今後さらに取り組んでいく必要がある。

(2) 教職員アンケート結果の概要について

- 対象教職員数 : 39名
- 回収者数 : 39名 (回収率100%)
- 質問項目数 : 38
- 質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目38項目で、肯定的な評価の平均は94.0% (昨年比+0.8%)

○否定的な評価が高かった項目 (15%以上)

▲ 昨年度に比べて評価が下がった項目

- ・ シラバス等を履修ガイダンスの際に効果的に活用している。
- ・ BYODを授業等で活用させている。
- ・ 教科指導やHR指導、また個人で図書館を活用している。

◎ 昨年度に比べて評価が高まった項目

- ◎ 21.6% (+1.4%)
- ▲ 27.0% (-9%)
- ▲ 46.0% (-5%)

【考察】

- ・ 全体では、肯定的な評価が昨年度よりも0.8ポイント上がったものの。評価すべき項目と改善する項目は明らかになっている。改善に向けた具体的な取組は大きな課題である。
- ・ 生徒募集定員の減少に伴い教員定数も年々減少している。教職員が意欲をもって取り組める職場環境が整えられるような校内人事等の適度な分担が必須とはいえ限界がある。そのような中で、管理職との面談等の機会を設け問題点、課題を浮き彫りにするとともに、改善を図る必要がある。
- ・ 指導と評価の一体化への取組を行っているが、昨年度シラバスの活用等で評価を落としたため、見直しをかけ、1.4ポイント改善したが、道半ばではある。授業改善に関しては一昨年評価が上がったものの、昨年度よりも低い評価となり、新しい授業スタイルの確立に向かい踊り場的な状況にあるかもしれない。さらに指導力向上のために教員が自己研鑽のため研修・研究を積むことも引き続き取り組む必要がある。

- ・ 特別活動の充実を図り、継続してキャリア教育とともに、人としての生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養えるように取り組むことが肝要である。文武両道の方策についての評価のポイントが上がったが、さらに職員全体の共通認識と理解を深め、両者の理想的なバランスをとっていく必要がある。
- ・ Classi 等の教育情報コンテンツの有効活用については、昨年度に比べて評価が最も下がった項目であり、効果的活用への悩みがうかがえる。授業に限らず、効果的かつ有効に使うことが肝要であろう。
- ・ 図書館の活用については、図書室と連携を図りながら、生徒にとって「読書センター」、「学習・情報センター」としての機能が果たせるよう活用を考えていく必要がある。
- ・ 新学習指導要領の理念が手違勅しつつある中で多様な教育課題の克服のみならず、校長としての教育方針・教育理念が示され、人材育成や保護者・地域との連携、丁寧な対応なども周知されていると考える。
- ・ SSHに対する評価が、今年度、下がった項目としてあげられる。数にすると数名となるが、探究活動の教育的意義を再確認し、これまで以上に全校で取り組まねければならない。

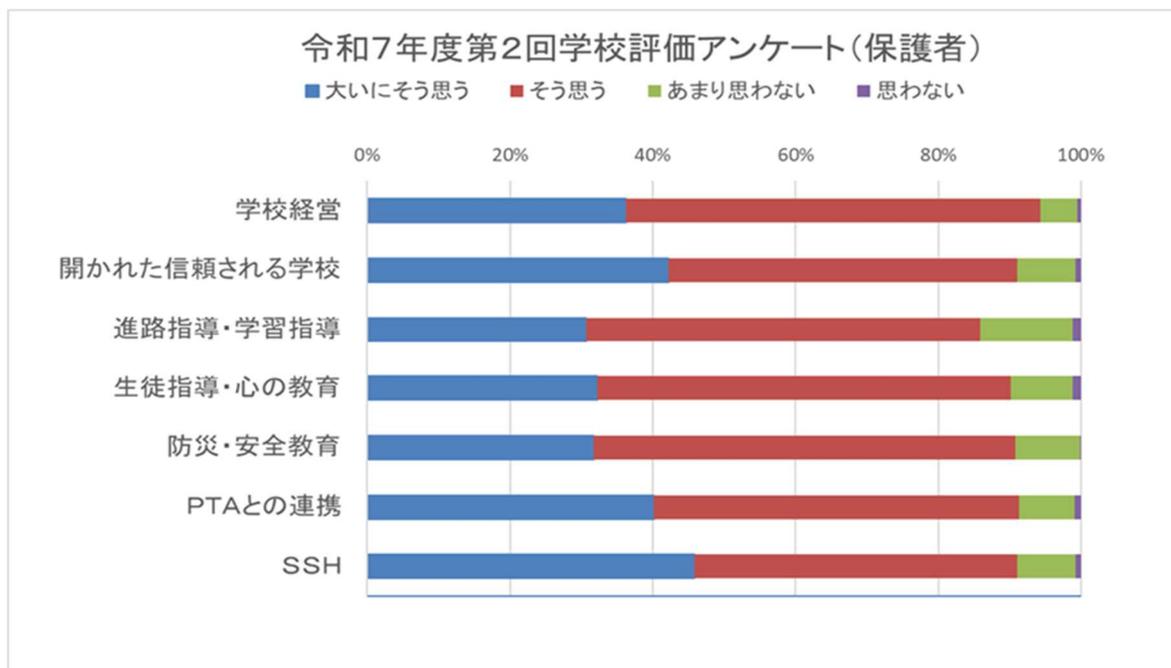
(3) 保護者アンケート結果の概要について

○対象保護者数 : 580名

○回収者数 : 416名 (回収率71.7%) ※ R5.76.6% R5.65.3%

○質問項目数 : 18

○質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目18項目で、肯定的な評価の平均は90.1% (昨年比+2.4%)

○否定的な評価が特に高かった項目 (20%以上) ※今年度はありませんでした。 今年 (昨年比)

- ・ 項目 0% (±0.0%)

【考察】

- ・ 本校の教育方針である「文武両道」をよく理解していただき、生徒自身の成長に向けた学習・進路指導や部活動指導などの教育活動に概ね良好な評価をいただいている。今後も継続して学校と家庭・保護者との連携(連絡や相談等)を密にして信頼関係構築に向けて取り組むことは肝要である。その際、直接対面の対応と状況に応じてICT等を活用しての対応を行うような柔軟な姿勢も必要だろう。
- ・ 学園祭や学校説明会、授業公開等の学校行事に保護者が来校する機会が普通のこととなってきた。また、三者懇談時のフードドライブ活動はPTA活動として多くの賛同、協力を得ることができた。より開かれた信頼される学校となるよう次年度以降も継続して取り組んでいくことが望ましい。

- ・ 保護者に対する情報発信は、Classi を通じて行い、浸透しているが、配布物やいじめアンケート結果等についても確実に配付、調査できるようにしていく必要がある。ホームページやブログについて、要望や問合せも多く閲覧数は増えているので、どのように更新していくのか課題が残る。

3 学校評価考察

教員の評価が一部の項目で数ポイント下がったものの、生徒、保護者及び教職員の学校改善・点検シート結果全体は全て昨年度より数値が向上し、数年間通しても高評価が続いている。この結果から、本校の教育活動は、全体として生徒及び保護者の期待に応えられており、概ね肯定的な評価をいただいていると判断している。

学校経営・学校事務に関して、概ね評価を得ているが、今後も教職員が意欲的に取り組める環境は何かということの追求を念頭におき、風通しの良い職場であることを目指し、信頼関係を構築していく必要がある。「文武両道」を基軸とする本校の教育目標・指導重点は保護者や地域にも広く共有され、教職員はその支援を背景に教科指導・生徒指導・進路指導及び部活動指導に熱心に取り組んでいる。この強みを活かしながら、常に方法を改善させ、生徒が高い目標を持ち、それを実現させるために質の高い教育活動を展開していく必要がある。

学習面や教科指導に関して、学習習慣が確立できてない生徒は一定数存在し、それらの生徒の基礎学力未定着が危惧される。HR担任や教科担任による主体的に学習へ向かわせる工夫や生徒の意識改革を促す仕掛け、家庭学習時間を確保するように、部顧問や保護者の協力を得て指導・働きかけをすることが必要である。

全生徒に対する一人一台端末（BYOD）の活用が途に就いた。もはやICTを活用した教育活動は当然となり、文房具の一つとして端末を持ち歩いて学習に取り組む生徒の姿を想定している。Classi等の連絡ツールとしての活用は、学校からの連絡やアンケート等に利用され、クラス担任からの個別指導や年次における情報共有は図られている。さらにClassi等を活用した個別最適な学習も浸透させ、家庭において個々の生徒が主体的に学習することが必要不可欠となる。家庭の理解と協力・連携を得て、生徒の成果や変容につながるものでなければならない。今後、個々の生徒に学習目標を設定させて、自ら学習計画（ロードマップ）を描けるような指導に繋げていくことが肝要となるであろう。生徒が自主的に取り組むことは、学習とともに部活動や生徒会活動も同じである。全生徒が「自分事」として諸課題に取り組む姿勢の醸成を図ることに努めていきたい。

全教職員が、各教科で「指導と評価の一体化」の研究・研修をすすめ、適切な評価基準に基づく学力の向上と大学入試に向けた実力アップを念頭に授業改善に取り組んで久しい。「主体的・対話的で深い学び」の視点で、変化の予測が困難な時代にも対応できるよう情報を収集・処理し、自ら課題を解決できる力を育成することが求められている。今後は、一層「深い学び」を実現することを狙いとした教育活動を展開していく必要がある。

進路指導に関して、進路関係の情報を有効に収集・処理し、積極的に活用しようとする方法を1年次より丁寧に指導して、将来の進路のイメージを早い段階から意識させていくことに取り組んでいかなければならない。講演会に積極的に参加したり、オープンキャンパス、進学説明会等へ参加したりすることを通して情報を入手する等、これまで以上に、進路実現に対する動機付けになるような具体的な行動に繋げていきたい。

3期目4年目のSSHに関して、「変化する社会の中で新たな価値の創造に向けて挑戦し続ける人材の育成」のため様々な研究開発事業への取組は、生徒・保護者、教職員から概ね高い評価を得ている。課題研究には全生徒が取り組み、自ら課題を発見し主体的に活動することによって、課題解決能力の育成が醸成できていると考える。課題研究の充実により、「地域の知の拠点」の役割を拡げ、協働性の向上を図るとともに学びに向かう力、探究心、課題解決能力が身に付いたという評価をしている。今後は増々地域貢献・還元できる活動を地元の企業や関係諸機関と連携して取り組んでいくことが期待される。課題研究の拡大・深化に取り組み、これまでの取組を検証して教育効果の高いものとすると共に、その成果の外部への広報についても今後さらなる努力が必要である。SSH事業を基軸として魅力ある学校づくりを今後も進めていかなければならない。特色を活かした教育活動を継続し、地域との信頼関係を揺るぎないものにしていくことが求められている。

教職員については、教科指導とSSHに対する評価が下がっている。どちらも学校の根幹に関わる部分なので、管理職による面談や声かけ等を行い、意見をくみ取っていく必要がある。通常の授業や部活動の指導に加えて、不登校や多様な生徒への対応など負担も大きくなっている。数カ月続けて長時間勤務となる教職員もいる。年次有給休暇等を取得しやすい環境づくりを含め、引き続き「働き方改革」を進めていく必要がある。昨年度、服務規律の評価の低下がみられたが、持ち直している。今後もこのような予兆を見逃さず、職員全体で気を引き締めしていく必要がある。

保護者が教育活動に高い関心を持ち協力的であることは、教育活動を進める上で大きな推進力となるものである。保護者との強固な信頼関係を築くためには、校内の情報を積極的に公開するなど、開かれた学校づくりが欠かせない。学校ではホームページやブログ、年次だより、広報紙等を通して情報を提供の浸透が図られてきた。ブログは、行事だけでなく授業や部活動、学校行事等も含め情報を発信している。紙ベースで生徒を通じての通知から、Classi等の連絡ツールを通じて直接保護者へ情報を届けることも多くなり、好評を得ている。

4 課題と改善に向けて

(1) 課題

① 生徒

- ・学習習慣の定着と学習時間（家庭学習時間）の確保（主体的かつ計画的な学習への取組）
- ・キャリア教育への意識付けと充実（キャリアパスポートの活用）
- ・ICTの有効活用
- ・図書室の有効活用

② 教職員

- ・生徒の進路意識の高揚と学習への動機付け
- ・SSH全校体制の構築
- ・多忙化改善（長時間勤務解消）とメンタルヘルス
- ・ICTの有効活用
- ・図書室の有効活用

③ 保護者

- ・避難・防災計画の周知
- ・配布物等の取扱い（生徒指導・進路指導、SSH等）

(2) 改善に向けて

① 新学習指導要領に基づく確かな学力、資質・能力の育成

- ・「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」の育成
- ・学びに向かう力、人間性等の涵養

② 授業改善、授業力向上、ICT活用への取組

- ・生徒の変容を図る評価の研究
- ・ICT機器を有効活用する方法の研究

③ 家庭学習時間の確保に向けた取組

- ・学習と部活動とのバランス及び下校時刻の徹底
- ・タイムマネジメントを意識させる取組
- ・課題に対する意識付けと各教科での課題量の調整
- ・Classi への家庭学習時間記録の徹底

④ 進路指導

- ・SSHと連動した進路意識高揚に向けた指導の実践
- ・模試データ等の教科、年次、部顧問による情報共有と連動した指導
- ・入試問題、小論文、面接等の分析と教員への研修
- ・全校体制による3年次生への進学・就職指導の充実
- ・保護者対象進路講演会の工夫
- ・キャリアパスポートを通じたキャリア教育の展開

⑤ SSHの取組

- ・課題研究の充実に向けた全校体制による具体的な取組
- ・「ちえぶくろシステム」の活用と全校体制の強化
- ・SSH関連行事の充実と積極的な広報

⑥ 生徒会指導

- ・生徒数減少に応じた部活動体制の構築（削減検討）
- ・文武両道を実現する合理的な練習、指導計画の研究
- ・生徒、保護者、同窓生及び県民の期待に応える成果
- ・地域のボランティア活動への参加

⑦ 信頼される学校

- ・安心、安全な学校づくり（危機管理）の徹底
- ・学校と家庭との連携による生徒指導の実践（配布物、いじめアンケート結果等の連絡）
- ・Classi を通じた学校と家庭との連携

⑧ その他

- ・広報活動の充実による受検生の確保
- ・学校ホームページ、学校紹介動画、学校パンフレットのさらなる工夫
- ・グラウンド人工芝生化の実現による魅力発信と地域貢献（学校開放など）の促進